

令和元年度小松市立符津学校 学校評価2

| | 目標・具体的取り組み | 取組の状況（中間・8月提出） | 取組の成果と課題（年度末・3月提出） |
|-----------|--|---|--|
| 生徒指導 | 魅力ある学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・6月に運営委員会主催で「挨拶オリンピック」を行った。朝、学校に登校して、自主的に挨拶運動に参加するという活動であったが、6年生を中心に学年で声をかけ合い、多くの児童が参加して挨拶の輪が広がった。今後は挨拶運動への学校単位の参加率を上げられるよう、運営委員会や6年生を中心に学校全体に声をかけていく。 ・学校が「楽しい」と答えた児童の割合は62%であった。後期はその割合が67%になるよう、児童会を中心に符津子集會や各委員会主催のイベント等で「学校が楽しくなる」ような活動をしていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・10月に行った挨拶運動では、各クラスで協力して挨拶運動を行う姿が見られ、大きな声であいさつしていた。今後の課題として、後期に「あいさつがよくなるように取り組む」との割合が9%減少した。よりよい挨拶を定着させる取り組みとして、「誰といても・何度でも」を合言葉に、校内であいさつの輪が広がるようにしていく。 ・後期児童アンケートで学校が「楽しい」と答えた児童の割合は前期と変わらず62%であった。しかし、「どちらかといえば楽しい」の割合が28%から29%に1%上昇した。今後の課題として、学校を「楽しい」と感じる児童がより増加するよう、「陽気」で明るい学校づくりとして、学級活動の充実や、児童会行事の精選をする。 |
| | 不登校児童の抑制 | <ul style="list-style-type: none"> ・不登校傾向の児童は、5月中旬からふれあい教室に通級している。6、7月は1日も休まず通級している。放課後、母親と学校に来て担任とつながっている。ふれあい教室の指導員や市センターの先生とも連携しながら学校に復帰できるよう見守っていききたい。 ・各学級の問題行動のある児童については、専門相談や教育相談を要請し、校内委員会を開いて今後の支援について話し合い、それぞれの学級で実践している。 ・夏休み中に個別的教育支援計画を立て今後の支援につなげていく。また、児童理解の会を持ち、全職員で共通理解をしていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「学校が楽しい」と感じている児童の割合が9割と2学期よりも増えていることがアンケート結果よりわかった。また、教職員アンケートの「配慮を要する児童の早期発見に努め組織的な対応に取り組んでいる」の項目では、中間も後期も100%であり、こうした学校全体での取り組みで児童が「学校が楽しい」と感じ不登校の抑制につながっていると感じる。 ・校内で支援を要する児童について校内委員会を開き、場合によっては保護者や市センターの先生も交え支援について検討してきた。これにより、保護者をセンターにつなげる学校・家庭の両輪で児童を見て行く体制ができた。個別的教育支援計画も作成し、次年度への引継ぎに役立てていきたい。 |
| 道徳教育 | 重点項目についての児童・教師の意識の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・重点項目については機会があるごとに呼びかけ、職員の意識は高めてきた。教職員アンケートでも92%と出ており、意識して取り組んでいることが分かる。 ・夏休み中に再度呼びかけをし、時数の確保や重点項目への意識を高めていきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・重点項目について意識的に取り組むことや、道徳ノートを使い教師が児童一人一人を見取ったり道徳の評価につなげたりすることの達成率は100%であった。道徳ノートを使うことによって、授業中に見取りだけでは分からない個々の心の変容を記述から得ることができるようになってきているといえる。 ・評価の仕方については共通理解が不十分な部分もあるため、指導要録の評価と併せて職員で共通理解を図りたい。 |
| | 道徳ノートを使い、児童に自分の心の変容に気づかせたり、教師が児童一人一人を見取ったりできるようにし、道徳の評価にもつなげていく。特に重点項目については機会ごとに呼びかけを行い、学校全体で意識を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・重点項目については機会があるごとに呼びかけ、職員の意識は高めてきた。教職員アンケートでも92%と出ており、意識して取り組んでいることが分かる。 ・夏休み中に再度呼びかけをし、時数の確保や重点項目への意識を高めていきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・重点項目について意識的に取り組むことや、道徳ノートを使い教師が児童一人一人を見取ったり道徳の評価につなげたりすることの達成率は100%であった。道徳ノートを使うことによって、授業中に見取りだけでは分からない個々の心の変容を記述から得ることができるようになってきているといえる。 ・評価の仕方については共通理解が不十分な部分もあるため、指導要録の評価と併せて職員で共通理解を図りたい。 |
| 読書教育 | 読書の質の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジブックを整備し、チャレンジブック読書月間を設けたり、本の紹介など内容に興味を持たせる企画をしたりして、良書に親しませていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・2学期末までの図書室の貸出し冊数は一人平均123.2冊だった。「クラス全員本を借りよう月間」を設けたことで、全児童が図書室で本を借りて読むことができた。 ・学校全体で読書をする雰囲気づくりについては100%と1学期よりも上がり、担任や司書からの声かけによって意識が高まっていることが分かる。集會での校長先生のブックトークも子どもの意識を高めることにつながっていると考ええる。 ・来年度に向けて、担任や司書によるブックトークやチャレンジブックの記録の仕方や活用方法などを検討し、児童が良書に親しみやすい環境作りや読みたくなる企画を考える必要がある。 |
| | 系統的・計画的にキャリア教育を推進する | <ul style="list-style-type: none"> ・職員会議にて、年間計画について共通理解をおこなった。年間計画は、昨年度末に完成したものの、まだ、浸透していない様子である。職員が意識して取り組めるように、声掛けをしていきたい。 ・また、総合や生活科の中で地域との関わりをもてるようにしていきたい。 ・演劇鑑賞では、4年生が劇に参加したり、低学年が劇団員の方と給食を食べたりすることで、劇団員という仕事にふれることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・前期アンケートよりも「学級活動や総合的な学習の時間を中核として、計画的にキャリア教育を行った。」という項目で、28%上昇した。教職員の間でも意識ができてきたようだ。年間計画を年度末に見直し、継続的に実施していきたい。 ・地域の人材については、今年度から各学年、ゲストティーチャーや訪問先を掌握できるように、残すようにした。そのことで、来年度から、より効果的に活用できるようにしていきたい。 |
| 保健健康教育 | (自分の心身の健康に関心を持ち、生活改善をする) | <ul style="list-style-type: none"> ・生活点検を週明けに実施することはできたが、児童の意識をつくるだけでなく、保護者にわが子の生活の向上を意識してもらいたい。そのために、低学年は週末に生活点検カードを持ち帰り、保護者のチェックを受けた後、週明けに点検するとか、学期末の個人懇談に生活点検をもとにわが子の生活を見直すなど、家庭への発信を強化できた。児童会の保健委員会のキャッチフレーズは、実施後、それをどう活用していくかを検討したい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・11月の学校保健委員会では、児童保健委員会の発表と外部講師の講演から、本校のアンケート結果を踏まえて、メディアと心身の関係やメディアの付き合い方、生活リズムの改善の必要性を保護者と児童に伝えることができた。その後、「メディアの時間を減らす元気アップカード」を配布して、家庭でのメディアの時間を減らす取り組みを行った。また、生活点検カードを10月末に持ち帰り、保護者に確認とコメントをもらうことができた。保護者へのアンケートでは、「メディアの時間を少なくして、十分な睡眠をとらせる」が、4パーセント上昇した。 |
| | 情報モラル教育の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・年間1時間以上の情報モラルの授業をするよう呼びかける。また、外部組織と連携し、保護者も含めて情報モラルについての学び場を設定する。 ・生活点検を週明けに実施することができた。メディアのルールを守る項目に×がついたのは、全体の4.8%と低い数値だったが、ルールについては、あいまいなものが多かったため、ルールについて明確に決めたいことができるように「情報モラルについて」リンクさせていきたい。また、保護者懇談の際にメディアのルールについての冊子を配り、周知することができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート結果から、平日、終末のメディアの使用時間が長くなっていることが分かる。しかし、保護者アンケートでは、メディアの見直しは4%上昇している。生活点検を2学期途中に家庭を持ち帰りコメントを保護者に書いてもらったからではないかと考えられる。継続して生活点検で、児童に見直す機会を設けていきたい。また、情報モラルの授業を行うように声をかけていく。 |
| 家庭・地域との連携 | 地域に開かれた学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校だより等で学校の教育方針が十分に理解され、行事等で保護者や地域の方々の協力を得ることが多くあり、教職員のアンケート結果も100%と高かった。しかし、「保護者や地域の方の人材活用を積極的にに行った」の教職員アンケート結果は73%と低かった。授業での人材活用という点で、今後積極的に人材発掘・活用・登録へとつなげていき、地域人材データとして残していきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「保護者や地域の方の人材活用を積極的にに行った」の教職員のアンケート結果が79%と少し上がった。体育や総合学習や図画工作などで、保護者や地域の方に講師になっていただいたり話を聞きに行ったりの活動が多くなったからだと思う。 ・「外部講師名簿」の作成も進んでいる。人材発掘・登録を続けていくことが、地域に開かれた学校へとつながるとともに、働き方改革へもつながる。 |
| | 学校行事や育友会活動を通して、情報発信だけでなく情報収集も行い、保護者や地域との連携を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校だより等で学校の教育方針が十分に理解され、行事等で保護者や地域の方々の協力を得ることが多くあり、教職員のアンケート結果も100%と高かった。しかし、「保護者や地域の方の人材活用を積極的にに行った」の教職員アンケート結果は73%と低かった。授業での人材活用という点で、今後積極的に人材発掘・活用・登録へとつなげていき、地域人材データとして残していきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「保護者や地域の方の人材活用を積極的にに行った」の教職員のアンケート結果が79%と少し上がった。体育や総合学習や図画工作などで、保護者や地域の方に講師になっていただいたり話を聞きに行ったりの活動が多くなったからだと思う。 ・「外部講師名簿」の作成も進んでいる。人材発掘・登録を続けていくことが、地域に開かれた学校へとつながるとともに、働き方改革へもつながる。 |

| | | |
|---------|---------|--|
| 学校関係者評価 | 【年度末評価】 | <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果で一喜一憂するのではなく、いろいろな尺度をもって各学年の特色を見極め、目標を決め、それぞれの子の特性を生かした指導をこれからして欲しい。 ・保護者アンケートの「わが子は安心して学校生活を送っている」が97%と高い。このことが1番大切。 ・保護者アンケートの「南部中学校区の家庭学習のびきを参考にしている」の項目が、毎回低い。この項目を含め、アンケートの項目内容や基準について検討してはどうか。 ・あいさつについては、見守り隊で毎朝子どもたちの様子を見ていて、だいたいあいさつをしている。恥ずかしくてなかなかできない子もいるが、あいさつは強要ではないので見守っていききたい。 ・進学指導要領の全面実施に関して、道徳の評価は、その子の人間性ではなく価値項目に沿ったの気づきや成長を見るところ。外国語科については、評価も含めて今後、専科の先生が配置されるのが望ましい。 ・小中連携を多くしているのは、喜ばしい。 ・今後も、学校全体だけでなく各学年ごとの目標を保護者と共有し、肯定感が高まるための評価となっていくことを期待する。 |
| | | |